

JR連合結成30年を
次代への起点に据え
JR産業の持続的成長と
組合員・家族の幸せを実現しよう!
<http://www.jr-rengo.jp>



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
1部20円 (但し組合費に含む)
●発行者 荻山市朗 ●編集者 相良夏樹

facebook
twitter

JR連合結成30周年記念式典 次なる30年を見据え 強くしなやかなJR産業を創る



労働界や政府、政界の代表者に加え、JR各社代表と歴代会長も祝事に掛けつけ、次なる10年、20年、30年への飛躍に向け鏡開きを行う

JR連合は10月6日、JR東日本グループのホテルメトロポリタン（東京都）において「JR連合結成30周年記念式典」を開催した。当日は連合・交通労働協の幹部および加盟産別代表、国土交通省・厚生労働省の幹部、JR連合国会議員懇談会、JR各社の幹部、友誼団体の代表者等が来賓として参加したほか、JR連合加盟単組の代表者らも現地に参集した。コロナ禍の情勢に鑑み、現地参加人数を絞ったため、加盟単組にはオンライン視聴も案内し、現地とオンラインを合わせて総勢約500人が本式典に参加した。

式典の冒頭、30年の振り返りと、次なる30年を見据え強くしなやかなJR産業を創るための提言をムービーにまとめて上映した。その後、荻山市朗JR連合会長が主催者代表挨拶を行い、続いて来賓の芳野友子連合会長、齊藤鉄夫国土交通大臣、榛葉賀津也JR連合国会議員懇談会会長、金子慎JR東海代表取締役社長、明石洋一JR連合第4代会長がそれぞれ来賓挨拶に立ち、祝辞を述べた。

また、記念セレモニーとして、前述の来賓に加え、その他のJR各社代表者とJR連合歴代会長も壇上に並び、JR産業の発展に向けて、労使がともに「ONE TEAM」となっていかに歩んでいくことを祈念し、盛大に鏡開きを行った。最後はJR連合執行部を代表し、荻原秀己JR連合副会長（JR九州労組中央執行委員長）が閉会挨拶を行い、式典を締め括った。当日は記念式典に先立ち、「JR連合結成30周年記念シンポジウム」を開催しており、後日JR連合ホームページ・機関誌「てるみに」にて詳細をお知らせする。

荻山会長挨拶 〈要旨〉

**JR産業の大きな転換期にあたり
次なる30年を展望した
責任ある運動を推進していく**

1992年5月18日にJR連合が結成され、本年度30周年を迎えた。JR連合は今日、96単組、8万6000人が加入するJR産業を代表する責任に成長した。この間の先輩方のご尽力に敬意を表するとともに、私たちが支えて頂いたすべての皆さまに感謝を申し上げる。



1987年4月1日に「戦後最大の行政改革」といわれる国鉄改革が実施された。当時の職場は暗く荒んでおり、37兆円の債務を累積していた国鉄が本当に黒字化できたのか、誰もが不安だった。労働組合においてもJRに採用されなかった方々の追加採用などを巡って対立や分断があった。そうした発足直後の混乱を乗り越え、JR連合が結成された。

国民や関係者のご理解・ご支援、労使の努力により、JRは社会に一定の評価を頂ける成果を収めてきた。一方、少子高齢化と人口減少、高速道路網の整備など、JRを取り巻く環境は急速かつ大きく変化し、とくに鉄道の特性を發揮できない地方路線などの分野は厳しい経営状況に陥っている。

国鉄は発足から37年10カ月で幕を閉じた。JRは発足から35年6カ月が経過し、あと2年4カ月で国鉄時代と同じ期間に達する。今後30年を展望し、JR産業が安全を基礎に持続的に成長し、組合員が安心して意欲高く働き続けられる環境を築くためには、社会の変化に対応し、労使をあげて不断に変革を進める必要がある。

JR産業の将来を共に創る最も有用なパートナーとして、さらに連合、交通労働協の一翼を担う健全な社会勢力として、存在感・影響力を高め、責任ある運動を推進していく決意だ。そのためには、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集に全力をあげる。そして経営側には、他産業と同様に、JR各社、グループ間の連携を深めるとともに、JR連合および加盟単組とさらに強固な信頼関係を築くことを求める。

ご挨拶を頂いた来賓の皆さま(挨拶要旨)

芳野 友子 連合会長

結成以来幾多の苦難を乗り越え、安全の確立を最優先に位置づけ、JR産業で働くすべての仲間の経済的・社会的地位の向上に努めてきたことに心から敬意を表する。



コロナ禍が交通運輸・サービス産業に与えた影響は甚大だ。今、地域公共交通のあり方が問われているが、連合としても協力・連携したい。転換期を乗り越えるために重要なのは健全な労使関係だ。その関係性の下、産業の持続的成長を通じ、働く仲間の地位の向上と幸せの実現を果たし、発展することを祈念する。

齊藤 鉄夫 国土交通大臣



今年是我が国最初の鉄道が開通してから150年の記念すべき年。開業以来150年の長きにわたって、鉄道が我が国の礎であり続けられたのも、鉄道に関わる多くの方々がエッセンシャルワーカーとしての重責を果たしてきた賜物だ。

取り巻く環境は近年大きく変化しているが、鉄道が利便性の高い公共交通機関として今後も国民生活を支えていくためには、関係者の皆さまのご尽力がより一層重要になる。国土交通省としても、鉄道ネットワークを維持・確保していくため全力を尽くしていく。

榛葉 賀津也 参議院議員 (JR連合国会議員懇談会会長)



JRは民間会社だが極めて公共性が高い。だからこそJRという会社とそこに集う仲間、この国の宝だと思ふ。そのJRが今、コロナ禍で未曾有の危機に陥っている。

この難局を乗り越えるため、JR連合には今まで以上に労使関係をしっかりと紡いで欲しい。そしてJR各社には、ピンチをチャンスに変えるべく、横の連携を強化して欲しい。JR7社で利害関係や立場の違いがあるだろうが、他産業では実施していることだ。この難局をチームJRとして労使で乗り越えていくことを願う。

金子 慎 JR東海代表取締役社長



JR連合の発足30年は、経営側としても大変感慨深いものがある。当時を思い返すと、活力のある会社にして、健全な労使関係をつくっていく、国鉄時代に戻ってほしい。だいたい強い思いが労使双方にあった。

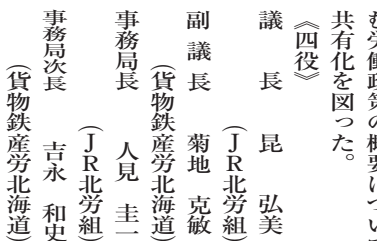
現在、JR各社はコロナ禍で大きな試練を迎えており、これまで以上の創意と工夫で自己を変革していく取り組みが必要となっている。今こそ、健全で建設的な労使関係のもと、労使で課題を共有の上、最大限の力を発揮して、これを乗り越えていかなければならない。

明石 洋一 JR連合第4代会長



JR連合結成大会当日、二度と分裂することのない民主的な労働組合を作ろうという思いで臨み、開会の挨拶を述べた。当時、東京の日本橋で事務所を探したが、界隈の不動産会社には、JRの労組には貸せないとされた。JRの労組に対する認識は今とは違っていた。今日のシンポジウムを聞き、JR連合は本当にすばらしい産物になったと思った。今後も色々な課題があり、コロナも大変だが、今日をスタートに、これから20年・30年を見据え、しっかりと政策をつくり、その実現に取り組んで欲しい。

式典には、ご挨拶を頂いた皆さまをはじめ、連合・交通労働協の加盟産別、国土交通省・厚生労働省、JR連合国会議員懇談会、JR各社、友誼団体等から90人を超えるご臨席と多くのメッセージを頂きました。



心
学
助
文
友
の
既
要
こ
つ
て

家族の幸せを災害から守る

**火災共済/地震風水害共済
交通災害共済/入院共済**

関与型共済・専任型共済・専任型共済

て地域
我が国
に極め
長期的
の中に
現すべ
け連携
ていく

■ **J R連合と鉄構労が連携し、課題解決に向け政策を展開**

J R連合と鉄道運輸機構労働組合（鉄構労）は、高速鉄道・新幹線ネットワークの構築と計画推進に係る政策提言の策定に向け共同で取り組んできた。鉄構労の仲間が建設した新幹線をJ Rが安全に運行するという役割を果たすことによって地域を盛り上げていくことは、我が国の成長や地域の持続的成長に極めて有用であると考えます。中長期的な国土のグランドデザインの中に高速鉄道・新幹線を描き実現すべく、様々な課題の解決に向け連携し、積極的に政策を展開していく。

A photograph of a white and blue Shinkansen (high-speed train) stopped at a station platform. The train is sleek and aerodynamic, with a large front window and a blue stripe running along its side. The platform has a glass and metal structure, and the background shows the station's interior with other tracks and buildings.